

日本鑄金家協会 展覧会 いもののかたち展 2024



実施者:日本鑄金家協会 いもののかたち展事務局

社会や地域の課題

川口市は鑄物の街として名高いが、現在では産業として下火になってきている。また、工業鑄物のイメージが強く、市民の間では鑄物が芸術や文化と地続きであるとの認識が薄い状況。江戸時代から続く川口鑄物は土地の風土と深く結びついており、鑄物にまつわる文化全体が土地の記憶として認識されて、芸術や産業を含めた地域固有の文化を醸成し、次世代へと繋げていくことが必要だと考える。

取組概要及び成果

作品展示では、日本鑄金家協会会員の他に川口ゆかりの作家6名を招待して、工芸から彫刻・現代アートまで幅広い作品(総数55名、87作品)を、川口市アートギャラリーアトリア全館を使って展覧した。川口鑄物についての解説パネルなどで地域性と関連づけながらダイナミックな造形から繊細な造形まで、鑄物の魅力を再発見できる展示とすることができた。シンポジウムでは川口市長、東京藝術大学名誉教授、郷土資料館の学芸員、産業鑄物関係の方々に登壇いただき、「鑄物と地域社会」をテーマとした発表とディスカッションを行い、工業鑄物と美術鑄物の垣根を超えた地域の文化資源としての鑄物の可能性について、来場した方々と共有することができた。錫の鑄造ワークショップでは36名が参加し子供達をはじめとした市民の方々に溶けた金属を流し込む鑄物の楽しさを感じていただいた。今回の事業では、企画段階から川口市アートギャラリーアトリアや、川口鑄金工芸研究会の他、行政、地域の個人や企業・団体に協力を仰ぎながら運営したことで、地域の文化芸術や鑄物に関わる各々の視点から文化としての鑄物を再認識する機会とでき、今後の協働へと繋げることができた。